Osaka University Knowledge Archive

Title	【定年退職教授の履歴および主要業績】　苧阪満里子教授
Author(s)	
Citation	大阪大学大学院人間科学研究科紀要. 2018, 44, p. 339-343
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/68306
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

Osaka University

【定年退職教授の履歴および主要業績】

芋　阪　満里子　教授

苧阪満里子　教授

1973 年　京都大学教育学部卒業
1976 年　京都大学大学院教育学研究科修士課程修了（教育方法学専攻）
1979 年　京都大学大学院教育学研究科博士課程修了（教育方法学専攻）
1984 年　教育学博士（京都大学）
1981 年　京都大学教育学部助手（-1984 年 3 月）
1985 年　大阪外国語大学助教授
2001 年　大阪外国語大学教授
2007 年　大阪大学大学院人間科学研究科教授
2013 年　大阪大学脳情報通信融合研究センター主任研究員（兼任）
2016 年　大阪大学大学院人間科学研究科名誉教授

苧阪満里子教授は、1973 年３月に京都大学教育学部を卒業、1979 年 3 月同大学院博士課程（教育心理学専攻）を修了した後、1984 年 11 月教育学博士（京都大学）を取得した。1981 年 4 月には京都大学教育学部助手に、1985 年 4 月には大阪外国語大学助教授に採用され、2001 年 8 月同教授に昇任した。2005 年には大阪外国語大学永年勤続者として表彰された。

2007 年 10 月には、大阪大学大学院人間科学研究科教授に配置替えとなり、先端人間科学の「心と脳の科学」研究分野及び「認知脳心理学」研究分野を担当して、大阪大学および同大学人間科学研究科・人間科学部の発展に尽力し、2015 年 3 月 31 日限り定年退職した。

苧阪教授の主な研究テーマは、人間の思考や学習などの高次認知の基盤をなすワーキングメモリのはたらきとその脳内神経基盤に関するものであり、我が国におけるワーキングメモリ研究を牽引してきた。特にワーキングメモリの個人差に注目して、個人差を測定するテストであるリーディングスパンテストを 1992 年に本邦において初めて開発して、そのテストにより得られる個人差をもとに、ワーキングメモリの特性とその脳内機構の解明を進めてきた。このテストは心理学のみならず、認知科学、脳科学、医学、神経科学、言語学などの多く学術領域においても広く使われている。また、ワーキングメモリの脳内機構が前頭前野を中心とする脳領域の活動により維持されていることと、こうした領域を中心とした制御がワーキングメモリの個人差を生じさせていることを解明してきた。その脳内機構の解明には、従来からの行動データや脳波、事象関連電位などの計測を中心とした方法に加えて、脳画像計測装置 fMRI、MEG などの脳イメージング法を用いた脳科学的知見を基盤とした研究実績を重ね、人間の心の基盤となる脳機能解明への道筋を開いた。その研究成果により、2002 年に日本心理学会優秀論文賞、2007 年に大阪大学教育・研究功績賞、2015 年に大阪大学総長顕彰「研究部門」を受賞した。

苧阪教授は、国内外での様々な学際的融合領域の学会においても多数の講演を行ない、そ

の研究成果の他分野への情報提供とともに、一般聴衆を対象とした会議や講演などをとおして国民への発信にも努めてきた。

苧阪教授は、日本学術会議 22、23 期の第一部会員であり、所属する心理学・教育学委員会の「脳と意識」分科会においては幹事を務め、日本学術会議科学者委員会大型研究計画検討委員会の幹事を務めるなど、日本の学術発展のため貢献している。さらに、学術振興会および文部科学省の研究費の審査委員、関西・大阪 21 世紀協会の事業審査会委員などを歴任している。

学会活動においても日本生理心理学会では理事、編集委員、編集委員長を務め、日本臨床神経生理学会では評議員、代議員として心理学分野の研究促進に貢献した。日本心理学会では編集委員、音楽知覚認知学会では理事を務め、日本ワーキングメモリ学会では立ち上げに尽力して、国際ワーキングメモリ学会を理事として開催した。国際学会においても Psychonomic Society の fellow member、Society of Neuroscience の member であり、Scientific Reports 誌の editorial board member である。

苧阪教授は、学内での教育、運営にも尽力して、大阪外国語大学においては、国際文化学科言語・情報専攻において学生、院生の指導に当たるとともに、言語社会研究科博士課程設立にも尽力して、大学院博士課程の院生指導にあたってきた。大阪大学に配置替え後は、先端人間科学の「心と脳の科学」研究分野及び「認知脳心理学」研究分野を設立して、学生、大学院生の指導を行った。

さらに、大阪大学グローバル COE「認知脳理解に基づく未来工学創成」（2009-2013 年度）のサブリーダーとして、認知心理学、認知脳科学分野を牽引してきた。また、大阪大学未来戦略機構第七研究部門「認知脳システム学研究部門」において、部局コアリーダーとして複合領域の研究と教育の推進に努力した。加えて、大阪大学リーディング大学院ヒューマンウェアイノベーション博士課程プログラムにも参画した。また国際的共同研究の重要性を認識して、大阪大学国際共同研究促進プログラム（2014-2015 年度）に研究代表として参画した。

苧阪教授は学際融合領域の研究にも積極的に取り組み、大阪大学脳情報通信融合研究センターに主任研究員として参画し、学術領域を超えた研究の可能性を示している。

以上のように、苧阪教授は、大阪大学及び人間科学研究科における教育、研究、運営を通じて、その充実と発展に貢献を果たすとともに、心理学、脳科学、医学、工学、情報学等の融合的研究を通じて、わが国の学術振興に大きく寄与している。

主　要　業　績

主要著書

1. 苧阪満里子 (1994). ワーキングメモリの認知神経心理学的研究―脳波からのアプローチ 風間書房
2. 苧阪満里子 (2000). ワーキングメモリと言語理解の脳内機構 苧阪直行（編著）脳とワーキングメモリ 京都大学学術出版会 pp. 157-180.
3. 苧阪満里子 (2002). ワーキングメモリ―脳のメモ帳 新曜社
4. Osaka, M., & Osaka, N. (2007). Neural basis of focusing attention in working memory. An fMRI study based on individual differences. In N. Osaka, R. H. Logie, & M. D'Esposito (Eds.), *The cognitive neuroscience of working memory: Behavioral and neural correlates* (pp. 99-117). Oxford University Press.
5. 苧阪満里子 (2015). 加齢とワーキングメモリ 苧阪直行（編）社会脳シリーズ 8 成長し衰退する脳―神経発達学と神経加齢学 新曜社 pp. 247-271.
6. 苧阪満里子 (2014) もの忘れの脳科学 講談社ブルーバックス

他 38 冊

主要学術論文

1. Osaka, M., Komori, M., Morishita, M., & Osaka, N. (2007). Neural bases of focusing attention in working memory: An fMRI study based on group differences. *Cognitive, Affective, & Behavioral Neuroscience*, **7**(2), 130-139.
2. Osaka, M., Otsuka, Y., & Osaka, N. (2012). Verbal to visual code switching improves working memory in older adults: an fMRI study. *Frontiers in Human Neuroscience*, **6**: 24, 1-8.
3. Osaka, M., Yaoi, K., Otsuka, Y., Katsuhara, M., & Osaka, N. (2012). Practice on conflict tasks promotes executive function of working memory in the elderly. *Behavioural Brain Research*, **233**(1), 90-98.
4. Osaka, M., Yaoi, K., Minamoto, T., & Osaka, N. (2013). When do negative and positive emotions modulate working memory performance? *Scientific Reports*, **3**: 1375, 1-8.
5. Osaka, M., Yaoi, K., Minamoto, T., & Osaka, N. (2014). Serial changes of humor comprehension for four-frame comic Manga: an fMRI study. *Scientific Reports*, **4**: 5828, 1-9.

他 93 報